

「地震時慣性力の方向」について指定が可能となりました。

(株)SIPシステム
技術サービスH26/2

1.安定計算時(地盤支持力と転倒の地震時安定計算時)

4) 「荷重組合の変更」ボタン

基礎地盤支持力の計算結果の詳細は、「荷重組合の変更」ボタンで内容の確認および荷重の組み合わせの変更が可能です。基本的な操作は、常時の場合と同様ですが、地震時の場合は、慣性力の作用方向について指定が可能です。



4)-5 「地震時慣性力の方向」の指定が可能

地震時の検討を行う場合、本システムでは「偏心率 (e)」の判定を行い慣性力の方向を決めています。その結果によらずに慣性力の作用方向を指定することも可能です。指定したい項目をラジオボタンで選択します。



- ・自動 (偏心率基準) : 水路構造物の偏心率 (e) を算出して慣性力の方向を決めます。
(例、eが底版中央より左側に有る場合、慣性力は右→左方向へ作用)
- ・自動 (水平力基準) : 水路構造物の側壁に作用する水平力大きさを判定して、慣性力の方向を決めます。
(例、通常側壁の高い(土圧)方向から低い側壁の方向へ慣性力が作用)
- ・左から右 : 強制的に、慣性力の方向を左から右へとします。
- ・右から左 : 強制的に、慣性力の方向を右から左へとします。

2.部材断面計算時(計算種別で両方または地震時を選択している場合)

「照査断面位置 (m)」の項目については、基準書規定の照査位置が初期設定されていますが、初期設定以外の項目設定は、項目名でチェックマークして個別に指定が可能です。

7) 「地震時慣性力の方向」

安定計算同様、部材検討時の地震時の検討に於いて「地震時の慣性力」の方向を検討ケース毎に指定が可能です。

(本項目は、計算種別で「両方」または「地震時」を選択している時に指定が可能です)

指定は、「検討ケース毎」に「地震に慣性力の方向」にカーソルを於いてマウスをクリックすると「偏心量→水平力→左から右→右から左」へと指定が切り替わりますので、適用したい項目を指定します。

各項目の意味は以下の通りです。
指定内容は、安定計算と同様です。

- ・ 偏心量：水路構造物の偏心量 (e) を算出して慣性力の方向を決めます。
- ・ 水平力：水路構造物の側壁に作用する水平力大きさを判定して慣性力の方向を決めます。(大→小の方向)
- ・ 左から右：強制的に、慣性力の方向を左から右とします。
- ・ 右から左：強制的に、慣性力の方向を右から左とします。

	ケース3	ケース1
必要	必要	必要
地震時	地震時	地震時
	○	○
	○	○
	○	○
		○
		○
	○	
		○
		○
水路上面荷重		Ve=12.500
その他の荷重		
地震時慣性力の方向	偏心量	水平力
詳細説明	開く...	開く...
		左から右
		右から左

ここにカーソルを置いてクリックすると選択項目が切り替わります。